

上北農業生産情報 第4号

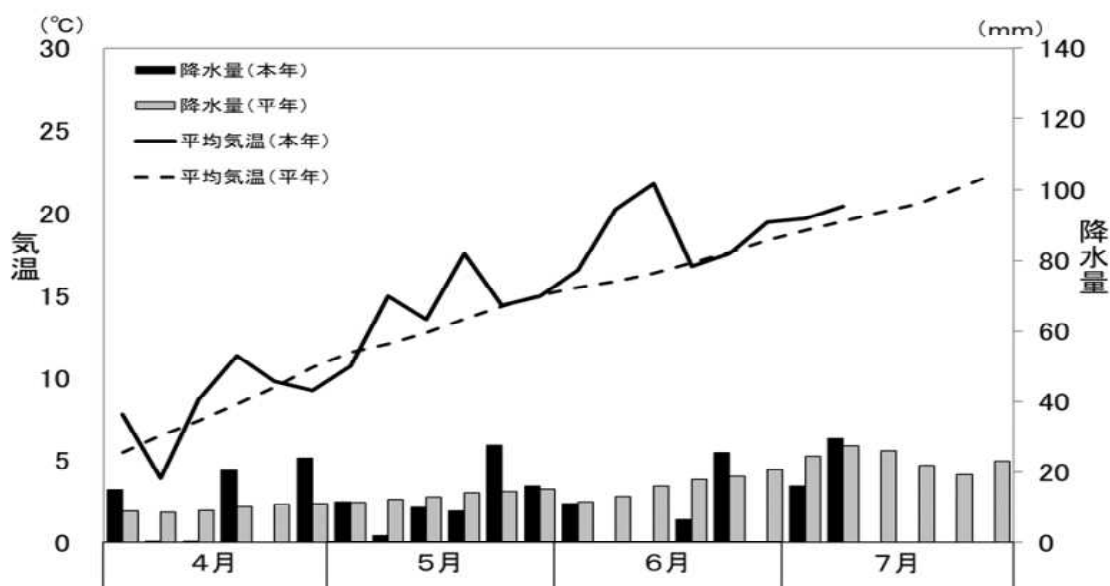
令和3年7月21日(水)
「攻めの農林水産業」推進上北地方本部

令和3年度農薬危害防止運動展開中

実施期間：令和3年5月1日～8月31日

- 農薬の使用前に必ずラベルを確認しましょう！
- 周囲に飛散に注意しましょう！
- クロルピクリン剤を施用したら、必ず「被覆」しましょう！
- 水田で使用した農薬が河川に流れ出るのを防ぎましょう！
- 散布器具の洗浄は十分に行い、使用前後に点検しましょう！
- 使用者自らも農薬を浴びないように注意しましょう！
- 施錠して保管し、余った農薬や空き容器は適切に処分しましょう！

気象



【半旬別平均気温・降水量の推移（十和田アメダス）】

《6月》

- ・ 平均気温は、期間を通して平年を上回った。
- ・ 日照時間は、上・下旬は平年を上回り、中旬は平年を下回った。
- ・ 降水量は、期間を通して平年を下回った。

【6月の気象（十和田アメダス）】

項目 時期	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	18.4	15.7	24.1	20.9	12.4	11.0	94.9	59.7	11.0	24.7
中旬	19.3	16.7	23.5	21.6	16.1	12.6	44.0	48.8	6.5	34.0
下旬	18.5	18.0	22.8	22.7	15.4	14.0	53.3	48.4	25.5	39.4

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

《7月上旬》

平均気温は平年に比べ0.8℃高く、日照時間、降水量は平年を下回った。

【7月上旬の気象（十和田アメダス）】

項目 時期	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間h		降水量mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	20.1	19.3	23.8	23.8	17.2	15.5	25.9	43.8	45.5	51.9

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

東北地方 1か月予報(7月17日から8月6日までの天候見通し)

令和3年7月15日 仙台管区气象台 発表

- 東北太平洋側では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- 期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みで、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- 向こう1か月の降水量はほぼ平年並みの見込みで、日照時間は平年並みか多い見込みです。

水 稲

- 1 生育観測ほの7月15日現在の生育は、草丈は69.8cm(平年比109%)、茎数は471本/m²(平年比99%)、葉数は11.2枚(平年差+0.8枚)であった。
- 2 幼穂形成期には、平年より5日早い7月7日に到達した。

【生育観測ほの生育状況（品種：まっしぐら）】

年次	7月15日現在				穂首 分化期 (月/日)	幼穂 形成期 (月/日)	出穂期 (月/日)
	草丈 (cm)	茎数		葉数 (枚)			
		(本/株)	(本/m ²)				
本年	69.8	23.6	471	11.2	6/28	7/7	(8/1)
平年	64.2	22.4	476	10.4	7/3	7/12	8/6

注) 管内生育観測ほ13地点の平均値、平年値は各地点の平年値(前5か年～前16か年の平均値)の平均値

出穂期は幼穂形成期+25日で予想(今後の天候により変動する)

《今後1か月間の主な作業》

1 水管理

- ア 幼穂形成期から見ると、7月中下旬が最も低温に弱い時期なので、最低気温17℃、日平均気温20℃以下の低温時には、15cm以上の深水とし、幼穂を保護する。
高温が続く場合は、4cm程度の浅水や時々水の入れ替えを行い、根の活力低下を防止する。
- イ 出穂・開花期は水を最も必要とする時期(花水)なので、出穂後10日間は5～6cmの水深とする。平均気温20℃以下の低温が続く場合は、10cm程度の深水にして保温する。高温時には、時々水の入れ替えを行う。

2 病虫害防除

ア いもち病

葉いもちの発生しやすい気象条件になってきているので、ほ場をよく見回り、早期発見・早期防除に努めるとともに、出穂直前及び穂揃期の防除を徹底する。

イ 斑点米カメムシ類

- ・出穂間近の草刈りは、斑点米カメムシ類を水田に追い立てることになるので行わない。
- ・やむを得ず出穂後に草刈りを行う場合は、本田への薬剤散布後、その効果が残っている間（残効性が高い散布剤は1週間以内、それ以外の散布剤は散布後速やかに）に実施する。
- ・防除は、穂揃期から穂揃期14日後までに効果の高い薬剤を使用し、例年被害の多いほ場やカメムシの発生が多くなっているほ場は、追加防除を実施する。

ウ 紋枯病

出穂直前に防除を実施するとともに、前年発生の多かったほ場や多肥栽培により株が込み入って繁茂しているほ場は多発生が予想されるので、穂揃期にも追加防除を行う。

大豆

《生育状況》

- 1 生育観測ほの7月9日現在の生育は、草丈、葉数とも平年を上回っている。
- 2 食葉性害虫による被害が散見され、例年より発生が多い。

【生育観測ほの生育状況（品種：おおすず）】

調査地	7月9日現在					
	草丈(cm)			葉数(枚)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
十和田市切田	46.7	28.5	35.1	6.9	3.8	3.4

注) 平年値は平成13年～令和2年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 培土

降雨による湿害等の影響を軽減し、大豆の生育を促進するため、早めに培土作業を行い、開花の1週間前(例年7月25日頃)までに作業を完了する。

2 病害虫防除

べと病やアブラムシ類、食葉性害虫の発生状況を確認しながら、防除を実施する。

3 除草

雑草が多い場合は、雑草の種類や生育ステージに合った除草剤で防除するほか、中耕によりほ場へすき込む。

ながいも

《生育状況》

- 1 生育観測ほのつるの伸長は順調で、ネット頂到達日は平年より8日早い7月4日であった。
また、7月9日現在の地下部の生育は、いも長は平年より短い、いも重、いも径は平年を上回っている。
- 1 一般ほ場の生育は、一部のほ場で萌芽のバラツキが見られるが、つるの伸長は概ね順調である。病害虫では、ナガイモコガ、アブラムシ類の発生が見られる。

【生育観測ほの生育状況（種いも：1年子芽付き）】

調査地	年次	植付期 (月/日)	萌芽期 (月/日)	つるのネット 頂到達日 (月/日)	7月9日現在		
					いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (cm)
東北町野田頭	本年	5/12	5/30	7/4	11.7	5.7	0.9
	平年	5/14	6/8	7/12	12.4	4.7	0.7
	前年	5/14	6/7	7/10	16.2	7.3	0.7

注) 平年値は平成20年～令和2年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 追肥

ア 早植栽培（4月下旬～5月上旬植付け）

- ・ 2回目、3回目の追肥を、それぞれ前回から10～14日間隔で行う。
- ・ 1回当たりの追肥量は、窒素成分で10a当たり5kg程度とする。

イ 普通栽培（5月下旬～6月上旬植付け）

- ・ 1回目の追肥時期は7月中下旬頃で、いも長が10～15cmを目安に行う。
- ・ 2回目、3回目の追肥は、それぞれ前回から10日間隔で行う。
- ・ 1回当たりの追肥量は、窒素成分で10a当たり5kg程度とする。

ウ 追肥の終了時期

早植栽培、普通栽培ともに、最後の追肥は8月20日までに終了する。

2 病害虫防除

葉渋病、炭そ病は、茎葉が繁茂する前から予防防除を行う。早植栽培では茎葉の繁茂が早いことから7月中旬～8月上旬に、普通栽培では7月末～8月中旬に10日間隔で2回程度薬剤散布を行う。

3 その他

強風や大雨に備え、ネットや支柱の補強及び明きょ等の排水対策を徹底する。

露地ねぎ

《生育状況》

- 1 生育観測ほの7月9日現在の生育は、草丈・茎径とも平年を上回っており、一般ほ場も順調に生育している。
- 2 べと病、さび病、斑点性病害が散見される。また、ハモグリバエ類やアザミウマ類の被害痕も見られる。

【生育観測ほの生育状況（品種：夏扇パワー）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	定植期 (月/日)	7月9日現在	
				草丈 (cm)	茎径 (mm)
十和田市羽立	本年	2/3	4/12	96.6	22.0
	平年	2/16	4/29	74.9	16.4
	前年	2/5	4/28	88.3	22.0

注) 平年値は平成17年～令和2年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 べと病、さび病、斑点性病害、アザミウマ類等の防除を行う。
- 2 追肥、培土を計画的に行う。

ごぼう

《生育状況》

- 1 生育観測ほの7月9日現在の生育は、草丈は平年比90%と平年を下回っているが、葉数は108%と平年を上回っており、生育は順調に推移している。病害虫は、アブラムシ類が多発している。
- 2 一般ほ場では、生育は概ね順調に推移している。病害虫では、アブラムシ類の被害が多く、コガネムシ類やハマシ類とみられる葉の食害が散見される。

【生育観測ほの生育状況（品種：柳川理想）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	7月9日現在	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市猫又	本年	5/ 1	59.2	4.1
	平年	4/30	65.8	3.8
	前年	4/24	95.8	3.3

注) 平年値は平成23年～令和2年の10か年平均値

《今後1か月間の主な作業》

黒斑細菌病、黒条病の予防防除、ヒョウタンゾウムシ等の根部食害害虫及びアブラムシ類の防除を行う。

ばれいしょ

《生育状況》

- 1 生育観測ほの7月9日現在の生育は、いも数は平年比94%と平年を下回っているが、草丈は平年比117%、いも重は同117%と上回っている。現在の発生規格は2L～Lが中心で、品質はそうか病や腐敗は見られず、おおむね良好となっている。病害虫は、アブラムシ類の被害がわずかに見られる。
- 2 一般ほ場では、いもの肥大状況は良好で、L、M規格中心となるほ場が多い。疫病は一部ほ場に見られる程度で、防除により進展は見られない。
- 3 枯凋処理(枯凋剤散布もしくは茎葉の抜取)は、植付けが早いほ場で6月第5半旬から始まった。

【生育観測ほの生育状況（品種：メイクイン、肩黒透明マルチ）】

調査地	年次	植付期 (月/日)	萌芽期 (月/日)	開花期 (月/日)	7月9日現在		
					草丈 (cm)	いも数 (個/a)	いも重 (kg/a)
三沢市庭構	本年	3/27	5/ 4	6/ 6	95.2	3,571	401.0
	平年	4/ 6	5/ 6	6/10	81.5	3,785	344.0
	前年	3/27	5/ 9	6/11	69.3	5,193	308.6

注) 平年は平成23年～令和2年の10か年平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 枯凋剤は、茎葉の黄変期～枯凋期(収穫14日前まで)に処理する。
- 2 茎葉の枯れ、いも表皮のコルク化を確認してからの適期収穫と、風乾を徹底する。

りんご

《生育状況》

- 1 十和田市米田での「ふじ」の7月11日現在における果実肥大(横径)は4.8cmで、前年比92%であった。
- 2 黒石市(りんご研究所)における果実肥大(横径)は5.4cmで、平年比110%、前年比106%となっている。

【生育観測ほの生育状況】

調査地	品種	7月11日現在の果実肥大(横径)		
		本年(cm)	前年(cm)	前年比(%)
十和田市米田	ふじ	4.8	5.2	92

《今後1か月の主な作業》

- 1 摘果
仕上げ摘果が終了した園地でも、必ず見直しをする。
- 2 病害虫防除
モモシクイガの産卵が続いているので、無袋栽培では毎回の薬剤散布にモモシクイガの防除剤を混用する。

りんどう

《今後1か月の主な作業》

- 1 ネット上げ
草丈の伸びに応じてこまめにネットを引き上げ、茎の曲がりを防ぐ。
- 2 病害虫防除
 - ア 葉枯病や褐斑病、アブラムシ類やアザミウマ類の予防防除に努める。茎葉が繁茂していると薬液が付着しにくくなるため、丁寧に散布する。
 - イ ほ場周辺の雑草は、害虫の発生源となるため除草管理を徹底する。

グラジオラス

《今後1か月の主な作業》

- 1 病害虫防除
土壌病害やウイルスによる症状がみられる株は、健全株への伝染を防ぐため早急に抜き取り、ほ場の外に持ち出し土中に埋める。
降雨が続くと病害が発生しやすいので、天気予報を参考に薬剤の予防散布に努める。

牧草

《今後1か月の主な作業》

- 1 2番草の収穫及び追肥
オーチャードグラス主体の草地では、草丈が70~80cmとなったら、7月下旬頃に地際より10~15cm残すようにして刈取りする。収穫後は速やかに追肥する。

2 草地の更新

牧草の収量が減少し、期待生産量が得られなくなった草地は計画的に更新し、生産力の回復に努める。牧草のは種は8月下旬から9月中旬までに行うが、そのための準備を行う。

ア 土壌改良・は種床の造成

堆肥の散布と耕起を行い、石灰質資材やリン酸質資材を散布、砕土・整地しては種床を造成する。

イ 3～4週間放置

は種床造成後3～4週間放置し、雑草を十分に発芽させる。

ウ 除草剤散布（8月下旬～9月中旬）

雑草が十分に出揃ったら非選択制除草剤を散布する。

エ は種・施肥・鎮圧（8月下旬～9月中旬）

除草剤散布後、雑草表面が乾いたら、牧草のは種と施肥を行い鎮圧する。なお、同日は種できない場合であっても、できるだけ速やかには種する。

飼料用とうもろこし

《生育状況》

生育観測ほの6月30日現在の生育は、草丈、葉数ともに平年を上回っている。

【生育観測ほの生育状況（品種：パイオニア115）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	6月30日現在	
			草丈(cm)	葉数(枚)
東北町北栄	本年	5/14	70.8	8.8
	平年	5/22	54.5	7.8
	前年	5/18	51.0	8.5

注) 平年値は、平成24年を除いた平成22年～令和2年の10か年の平均値